



おちほ

第82号 平成27年6月20日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>

氏

神

祭

り



今年も5月1日に毎年恒例の氏神祭りが行われました。今年の御神輿のテーマは、今、子ども達に大人気の「妖怪ウォッチ」のキャラクター。ジバニャンとロボニャン、船に乗ったこまさんの3体です。この3体がそれぞれ、利用者さんや職員に担がれたりして東寺の坂を登っていきます。途中、道沿いからの声援も受けながら、無事に「わっしょい」「わっしょい」と東寺グラウンドに到着。一麦さんと近江学園さんと御神輿の紹介をして交流の時間を持ちました。最後はみんなで記念写真。ジュースを飲んで解散となりました。当然、帰り道も元気に「わっしょい、わっしょい」今年は天気にも恵まれた氏神祭り、来年はどんな神輿が登場するのでしょうか。

地域包括ケアと茗荷村Ⅱ

みょうがむら

理事長 山下陽一

技術論と理想論

「包括ケア論点」は膨大なデータを根拠に統計学の伝統的手法に基づく分析を行ったものだと思いますが、数値化されたものなから、その傾向を予想しそのことに伴って生起する問題の対策として、現実的な施策を講じるという、いわば「技術論」

の観点から成り立っているようです。つまり能力が不足しているモデルを基本の姿として捉えている観点で、個人の向上心、意欲や達成感など、それぞれひとの持つ力の数値化できない問題は排除されているのではないかと、という疑問が残ります。

「介護保険法」の目的は第一条に示されており、能力低下にともなう人に尊厳を保持し、自立した生活を支援することにあり、と要約されるでしょう。たとえば、老化三点セットといえる「糖尿病」「がん」「認知症」を伴うそれぞれの人が持つ能力の低下や経済的に余裕が次第に厳しくなるといったこと、あるいは家族や仲間内が次第に喪失していくなど、持っていた能力から「引き算生活」をせざるを得ない社会の現象を解決しなければならぬことを問題としているのではないのでしょうか。

三菱のシンクタンクにはご高齢に

達した方や、間もなく達する方たちも研究会メンバーになっておられるようで、引き起こされる現実的な問題をリアルに想定しているようにも思えるところがあります。そのような観点から現実的な問題解決をする「技術論」は説得力あるものになっているのではないかと思います。

一方、「茗荷村」には架空のストーリーが展開されています。まさに「桃源郷」という響きがびつたりします。その意味でこれは「理想論」と言われるかもしれません。

田村先生は茗荷村に、様々な手造りによる製品をつくる手工芸作家たちの共同作業場を登場させています。

作陶する焼物屋、竹かごなどをつくる竹屋、家具などを造る木工場などで、特に焼物屋では「知恵が劣っている」子どもたちが粘土と無心に遊んでいる情景を描きだし、その無心な様子を「遊戯の世界」として、その作品は人間の底にある「大らかさ」に触れることができたと言っています。これは田村先生が子どもたちの作品に直接触れたとき先生のご自身の感動があったことだと思います。

「木と、弱い人と、職人さんが大事にされん国は、かさかさした、うるおいのない国になる」と手造り家具製作の木工場主人に語らせています。

茗荷村は様々な職人、弱い立場のひとや、老人などが自分たちの持っている力の出し損ねのない生活をしながらもの創りを行って生計を成り立たせています。

先にあげた「包括ケア」では、「自助・互助・共助・公助」について各人のかわりかたを再検討する必要がある、と述べていますが、この点について茗荷村もけつして安穏とした生活が保障されるということではありません。食べていくことの予断を許さない現実生活の厳しさについて「足の裏に餓死がひつついとらんと人間はあかんようになる」と木地屋の主人に語らせていますが、うかうかすると飢え死にしかねない生活共同体でもあるのです。田村先生のこの理想に基づいて各地で実践が続けられているのですが、現実社会とのギャップに参加する人たちのご苦労を思います。

生涯にわたり創造する

この「村」ではその人それぞれに合った仕事を与えられ死ぬまで何か仕事をすることが「柱」の一本です。弱い立場のひとでもそうでないひとでも、手工芸の職人のもとで修行します。

しかし相談にのつてはくれるのですが、食べる努力をするのは自分でしなければなりません。このことは老人のみならずどの世代においても毎日違う張りある日々を送ることになるでしょう。そして老木のそばに若木を植えると老木の勢いがよくなくなるとか、長旅をするとき若者のそば

にいとくたびれない、などの例をあげていますが、その場には「老・若」も「賢・愚」も共にある生活の場であることとされています。

創造することが日常では意識しない生命力をたぎらせる素晴らしさについて、過激な例で恐縮ですが、蜷川幸雄と老年俳優たちの舞台演劇をあげたいと思います。私が直接観劇したわけではありませんがNHKBBSで紹介されていました。(喝采 蜷川幸雄と老年俳優たち)「さいたまゴールドシアター」は蜷川幸雄によって二〇〇六年にプロの高齢者演劇集団として結成されました。「鴉(からす)よ、おれたちは弾丸(たま)をこめる」をパリ公演で成功させ大喝采を博したというものです。公演の最中誕生日をお祝いされた女優が感謝の言葉とともに、「五十六年前まで普通の老人の生活でした、八十九歳の誕生日をパリで迎えるなんて……！」と感慨をのべていました。もちろんこの公演の大喝采は蜷川演出による厳しいリハーサルが積み重ねられ、世界的に活躍する蜷川さんの演出により芸術性の高いものとなったのでしょうか。

創造する人として、娘時代をご当地石部で過ごし、いまわの際まで歌を作り続けた歌人の河野裕子(一九四六年七月二四日〜二〇一〇年八月二日)の一首を紹介して終わります。

手をのべてあなたとあなたに触れたきに息が足りないこの世の息が

【蟬声】

(二〇一五・五・二八)

絆 心 で き た も の

寮長 太田 正 則

今年の五月一日、落穂寮は六十五歳を迎えました。昭和二十五年、知的ハンディを持つ児童の生活訓練や学習指導のために生まれた寮は、何もわからないところから多くの方の支えを受けて、少しずつ力を付けて成長し、二十歳の成人期を迎えて石部の地に引越して自立しました。石部の地では、それまでに学んだことを活か

しながさらさらに多くのことに取り組み、知識や経験を積み重ねて、一人でも多くの児童が地域社会で暮らせるように働いてきました。五十歳を迎えた平成十二年、社会の変化を受けて一大決心してこれまでの児童施設から成人施設に転職。しかし、五十歳を超えてからの転職は容易ではなく、福祉制度の変化や価値観の変化、情報化の速度、社会の単位、経済の動向、あらゆるものがものすごい速

「いつも大変お世話になり、ありがとうございます。」

今年の取り組み

前号でお知らせ致しましたが、今年二月に新しい方が入所されました。それに伴い日中活動班や生活活動グループも見直すこととなります。限られた職員数ではありますが、引き続き今年も安心安全な生活環境を整え、しかも充実した日中活動の提供も行っていきたいと思えます。しかし、障がいの重さは支援度の高さを意味します。それは、障がい重いほど機能低下が早く訪れ、四十歳前後には高齢化現象が見られるようになり、

取り組みは、生活環境の改善として

- 一、歩行不能になられた方の介助用に入浴リフトを設置し、利用者さんの安心安全な入浴と職員
- 二、より拘りがきつくなられた方の生活活動の一部を小グループ化して不安軽減を図るべく、食事環境の改善に取り組む。
- 三、今ある作業棟を造形活動等に

取り組みめるように改築し、ギャラリーを設けて作品を展示することで障がい者アートの普及を図るとともに、活動科目の増設による日中活動の充実を図る。

以上の三点に重点を置いて取り組み、すべての利用者さんにとって、暮らしや活動において快適で充実した生活を送ることができるよう支援していきたいと思えます。

これからどうぞ引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

事業活動計算書

(自) 平成26年4月1日 (至) 平成27年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	障害福祉サービス等事業収益	322,432,790	317,279,432	5,153,358
		経常経費寄附金収益	153,000	340,000	△ 187,000
		サービス活動収益計(1)	322,585,790	317,619,432	4,966,358
	費用	人件費	222,019,321	208,687,992	13,331,329
		事業費	48,573,698	46,024,197	2,549,501
	事務費	19,156,225	14,130,868	5,025,357	
	減価償却費	27,038,904	28,425,883	△ 1,386,979	
	サービス活動費用計(2)	316,788,148	297,268,940	19,519,208	
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	5,797,642	20,350,492	△ 14,552,850	
増減の部	収益	受取利息配当金収益	33,559	35,169	△ 1,610
		その他のサービス活動外収益	10,528,675	7,279,503	3,249,172
		サービス活動外収益計(4)	10,562,234	7,314,672	3,247,562
	費用	支払利息	77,992	128,584	△ 50,592
	その他のサービス活動外費用	5,015,315	4,366,809	648,506	
	サービス活動外費用計(5)	5,093,307	4,495,393	597,914	
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	5,468,927	2,819,279	2,649,648	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	11,266,569	23,169,771	△ 11,903,202	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	990,000	72,426,000	△ 71,436,000
		施設整備等寄附金収益	835,500	45,000	790,500
		固定資産受贈額	192,024	0	192,024
		特別収益計(8)	2,017,524	72,471,000	△ 70,453,476
	費用	固定資産売却損・処分損	3	1,249,879	△ 1,249,876
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 13,382,854	△ 13,567,041	184,187
	国庫補助金等特別積立金積立額	990,000	72,426,000	△ 71,436,000	
	その他の特別損失	0	12,988,806	△ 12,988,806	
	特別費用計(9)	△ 12,392,851	73,097,644	△ 85,490,495	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	14,410,375	△ 626,644	15,037,019	
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	25,676,944	22,543,127	3,133,817	
増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	164,450,842	141,907,755	22,543,087	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	190,127,786	164,450,882	25,676,904	
	基本金取崩額(14)	0	0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	0	0	0	
	その他の積立金積立額(16)	40	40	0	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	190,127,746	164,450,842	25,676,904	

貸借対照表

平成27年3月31日現在

資産の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	160,755,402	140,294,605	20,460,797
現金預金	111,485,889	88,845,674	22,640,215
事業未収金	49,108,225	51,320,542	△ 2,212,317
立替金	111,288	78,389	32,899
仮払金	50,000	50,000	0
固定資産	571,044,604	580,864,155	△ 9,819,551
基本財産	456,523,860	478,188,060	△ 21,664,200
建物	456,523,860	478,188,060	△ 21,664,200
その他の固定資産	114,520,744	102,676,095	11,844,649
建物	26,211,560	18,078,830	8,132,730
建物附属設備	2,855,380	3,230,356	△ 374,976
構築物	3,538,856	3,988,801	△ 449,945
車輛運搬具	5,080,642	100,004	4,980,638
器具及び備品	10,348,676	11,109,386	△ 760,710
ソフトウェア	0	79,888	△ 79,888
退職給付引当資産	15,812,138	15,415,378	396,760
人件費積立資産	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立資産	40,000,000	40,000,000	0
備品等購入積立資産	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労積立預金	173,394	173,354	40
資産の部合計	731,800,006	721,158,760	10,641,246

資金収支計算書

(自) 平成26年4月1日 (至) 平成27年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考	
事業活動による収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	317,320,000	322,432,790	△ 5,112,790	
		経常経費寄附金収入	100,000	143,000	△ 43,000	
		受取利息配当金収入	24,000	33,559	△ 9,559	
		その他の収入	8,900,000	10,528,675	△ 1,628,675	
		事業活動収入計(1)	326,344,000	333,138,024	△ 6,794,024	
	支出	人件費支出	221,575,000	221,622,561	△ 47,561	
		事業費支出	48,885,000	48,563,698	321,302	
		事務費支出	19,889,000	19,156,225	732,775	
		支払利息支出	130,000	77,992	52,008	
		その他の支出	4,500,000	5,015,315	△ 515,315	
	事業活動支出計(2)	294,979,000	294,435,791	543,209		
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	31,365,000	38,702,233	△ 7,337,233		
に施よる整備取備支等	収入	施設整備等補助金収入	990,000	990,000	0	
		施設整備等寄附金収入	835,000	835,500	△ 500	
		施設整備等収入計(4)	1,825,000	1,825,500	△ 500	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	3,564,000	3,264,000	300,000	
		固定資産取得支出	16,200,000	16,630,532	△ 430,532	
	施設整備等支出計(5)	19,764,000	19,894,532	△ 130,532		
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 17,939,000	△ 18,069,032	130,032		
にそのよる他の収支	収入	積立資産取崩収入	0	1,960,680	△ 1,960,680	
		その他の活動収入計(7)	0	1,960,680	△ 1,960,680	
	支出	積立資産支出	10,000,000	2,357,480	7,642,520	
		その他の活動支出計(8)	10,000,000	2,357,480	7,642,520	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 10,000,000	△ 396,800	△ 9,603,200	
	予備費支出(10)	0	—	0		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,426,000	20,236,401	△ 16,810,401		
	前期末支払資金残高(12)	135,919,331	135,919,331	0		
	当期末支払資金残高(11)+(12)	139,345,331	156,155,732	△ 16,810,401		

(単位:円)

負債の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	4,599,670	4,375,274	224,396
事業未払金	4,070,363	3,799,868	270,495
職員預り金	529,307	575,366	△ 46,059
前受金	0	40	△ 40
固定負債	19,076,138	21,943,378	△ 2,867,240
設備資金借入金	3,264,000	6,528,000	△ 3,264,000
退職給付引当金	15,812,138	15,415,378	396,760
負債の部合計	23,675,808	26,318,652	△ 2,642,844
純資産の部			
基本金	179,097,106	179,097,106	0
第1号基本金	163,080,910	163,080,910	0
第3号基本金	16,016,196	16,016,196	0
国庫補助金等特別積立金	288,225,854	300,618,708	△ 12,392,854
その他の積立金	50,673,492	50,673,452	40
人件費積立金	7,000,000	7,000,000	0
修繕積立金	40,000,000	40,000,000	0
備品等購入積立金	3,500,098	3,500,098	0
退職慰労金積立金	173,394	173,354	40
次期繰越活動増減差額	190,127,746	164,450,842	25,676,904
(うち当期活動増減差額)	25,676,944	22,543,127	3,133,817
純資産の部合計	708,124,198	694,840,108	13,284,090
負債及び純資産の部合計	731,800,006	721,158,760	10,641,246

平成26年度決算報告

新人紹介(6)



はじめまして、4月から働かせていただいている加藤千尋と申します。私は、高校生の頃に吹奏楽部に所属しており、依頼演奏で障がい者施設にて演奏させていただいた際、私たちの演奏に身体全部を使って表現し楽しんでおられる利用者さんの姿を見て、障がいを持つ方と関わる仕事がしたいと思うようになり、この道を志しました。福祉の大学での実習では高齢者施設が多く、障がいを持った方と接する機会はほとんど無かったため、友人からの紹介で大学近くにある障がい者施設で入浴ボランティアを始め、障がいへの理解の難しさや大切さを学び、この落穂寮でもっと学びたいと思いつく決意をいたしました。現在では毎日楽しく働かせて頂いています。利用者さんとの関わり等で戸惑うこともたくさんありますが、しかし、その度に指導して下さる先輩方や、利用者さんの笑顔に支えられています。支えられるだけでなく、少しでも利用者さんの支えになれるよう笑顔で頑張りたいと思います。

はじめまして、寺嶋美和と申します。この度、御縁がありまして職員のひとりに仲間入りさせていただきました。実習中に施設長よりいただいたアドバイス、職員が利用者さんに育てられるという仕事です。この言葉の本質を日々追い求めながら、利用者様と向き合うというよりは同じ方向をみて共に生きてゆきたいと願っています。口だけならぬよう努力して参りますので、皆様ご指導の程よろしくお願い致します。私事になりますが、少しお付き合い下さい。私がこの落穂寮に辿り着くまでは、服飾を学んでいました。衣食住の言葉通り、服を身につける事は、暮らすことよりも食べることよりも不愉快にさせることも出来てしまう衣食住の「衣」についてこれからも考えていきたいと思います。ものづくりから得られる充実感や、大変さ難しさを知ること、ものを大切に使うと思う気持ち、作った人の心を想うことを私が伝えていけたらと思います。ものづくりへの思い同様利用者様との関わりも、心を込めた支援を目指したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



平成二十五年十月より働かせて頂いております。飯田輝美と申します。早いもので一年半が経ちました。以前は、福祉とは全く違う職場で働いていましたが、生涯働ける仕事がたくて資格を取得し、興味のある仕事に就くことが出来た事をとて幸運に感じていましたが、やはり最初は戸惑うことばかりでした。障がい者と言っても私の周りでは実家の母が私の子供の頃から足が悪く、何度も手術をし杖をつけて歩いていくくらいで、知的障がいの方たちと身近に接することがなかったからです。少し仕事に慣れてきた所で、体調不良の為にしばらくお休みさせて頂いたことになってしまいました。今まで大きな病気をしたことがない元気が取り柄の私にとっては大事件でした。手術後しばらく思うように動かない身体と痛みは想像以上でした。しかし、この病気のおかげで身体が効かない事がこんなにも大変なんだということに改めて痛感出来たこと、ケアをして下さる方々のやさしさや必要性を知るとても良い経験でもありました。この経験を忘れず、これからの支援に生かして頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

四月十四日から日中活動支援員として働かせていただいております森嶋代里子です。どうぞよろしくお願致します。三月で前職を退職し、新しい仕事を探していました。何気なく見ていた求人広告の「明日の笑顔を一緒に作りましょう」というキャッチコピーが目に残りました。人と関わる仕事をしたと考えていたので早速体験をさせて頂きました。当初(今もそうですが)、何も分からず戸惑うことが多々ありました。そんな時、利用者さんが笑顔で接して下さったり、職員さんが優しく親切に教えて下さったりと本当にありがたかったです。私は、ケツメイシさんの『出会いのかけら』という歌が好きで、環境が変わった時などによく聞いています。その歌詞には、私が大切にしていきたいと考えていることがちりばめられているような気がします。利用者さんや職員さんとの出会いを大切に、自分の立ち位置で、できることを一生懸命やっています。



はじめまして。4月から落穂寮の調理員として働かせて頂く事になりました、吉川美野里と申します。私も落穂寮と同じ東寺に住み、今年で20年目になりました。同じ東寺に住んでいます。今まで障がいを持った方と接する事はほとんどなく、働き始める前は私に調理員の仕事が務まるのかと不安もありました。しかし、初日から調理の段取りを丁寧に教えて下さる先輩方に助けられ、気持ちよくお仕事をさせて頂いていただいています。毎日発見の日々で一日があつという間に過ぎていきます。利用者さんの顔も数人わかるくらいで、せっかく利用者さんが話してくれているのに気持ちが悪くならない時もあります。でも元気良くおはようと言ってくれたり、食堂の向こう側からニコッと笑顔をもらおうと心が温かくなります。まだまだ始まったばかりですが早く仕事を覚えて任せてもらえるようになりたいです。利用者さんともたくさん関わっていききたいと思っております。美味しいご飯を通して心も通えたらと思うと今からすごく楽しみです。駆け出しの私ではありますが皆さんどうぞよろしくお願致します。



皆さまはじめまして。2月から炊事で働かせて頂くことになりました中辻有琴と申します。私は、高校を卒業してパン屋さんで二年半働かせて頂いて調理師の免許を取得しました。それからは父の営んでいる養鶏業を手伝い、鶏の産んでくれた卵を使ってたまごサンドやプリン、鶏のお肉を使った肉団子といった様々な商品を朝市などのイベントや定期的に購入してくださる固定のお客様に販売しておりました。販売したいものを模索、試作してそれができればパッケージや名前を考えるということを自分で行って行く中で、免許は持っているも技術や知識がまだまだ足りないと思っていくようになっていきました。そのような時、炊事の方にお声をかけていただいき、この落穂寮で働く機会を頂きました。大量調理は食材の洗い方から切り方、大鍋を使つての炒め物まで家庭とは違います。先輩方に教えて頂きながら勉強する毎日です。分らないことが多くご迷惑をおかけするとは思いますが、皆さまに美味しいお食事を提供できるように頑張りますのでよろしくお願致します。



花の香りがそよ風に運ばれてくる中、石部町の松籟公園に遠足に行きました。

利用者さんそれぞれがグループに分かれて、おおよそ3キロの先の松籟公園まで、落穂寮から徒歩で頑張る方、途中の両山公園から頑張る方、松籟公園までの歩道を頑張る方。職員と一緒に皆さん完歩できました。

松籟公園でブルーシートを広げて腰を下ろし、一息ついてからお弁当とお茶が配られると、皆さんソワソワ！

今年のお弁当は、お肉もお魚もいっぱいのもとても豪華なものです。全員そろって「頂きます！」の後、それぞれお弁当を味わっておられ

▼和気あいあいと楽しんでいます。



▼外でのお弁当はおいしさ倍増！



ました。もちろん落穂寮のご飯もおいしいですが、外で食べるお弁当はまた格別。それは皆さんの笑顔が物語っています。

「ごちそうさま」の後には自由時間。職員と公園内をランニングする人、公園の丘の上にある遊具で声を上げて楽しむ人。

いつもながら、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうものです。まだまだ楽しみたいところですが、落穂寮に帰る時間になりました。

いつも思うのですが、落穂寮の行事は必ず快晴！今日一日で皆さんすっかり日焼けしました。中には後日、首の後ろの皮がむけてしまうほど日焼けした人もおられました。

来年もみんなで遠足を楽しめましょう！

今年も季節は春を迎えました。落穂に春が訪れると、恒例の『お花見遠足』があります。ですが、「いつも『お花見』遠足なのに、肝心の桜の花は散ってしまっているような...。」という嘆きもあり、今年度から落穂の遠足は『春の遠足』と改名されました(笑)。

4月24日、遠足当日を迎えると新年度になって初めての行事ということもあり、利用者さんは遠足に出かけるといことがわかると朝からそわそわされていました。今年は一麦さんにマイクロボスをお借りし、いざ！水口スポーツの森へ出発！

お天気にも恵まれ、最高の遠足日和となりました。待ちに待った



▲とっても良いお天気☀️UV対策バッチリです

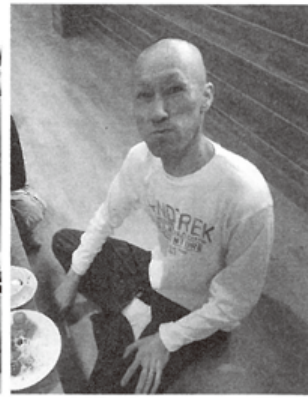
お弁当が公園に到着すると、荷物やお弁当を利用者さん、職員で協力して運びます。一仕事終えた後は、みんなで「いただきます！」お腹も満足されたようです。



▲おいしかったな！

お弁当の時間が終わると、自由時間。皆さんブルーシートの上で日向ぼっこをしたり、どこまでも続きそうな芝生広場で走り回ったり、転げ回ったりと、体いっぱい春の自然を満喫されています。公園内を散策したり、ローラーすべり台等の遊具で遊んだり、木陰に座ってのんびりされたり、近くの銭湯へお風呂に入りに行ったりと、それぞれの時間を皆さん楽しく過ごされていました。

新体制に変わり、初めての行事でしたので、皆さんそれぞれにクラスの利用者さんや担任と一緒に過ごせる良い機会になったことと思います。今年も一年間、このメンバーで仲良く頑張っていきたいと思います。



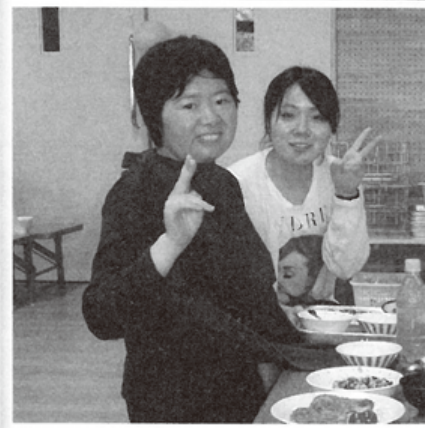
開寮記念日

今年もおちほの65回目のお誕生日がやって来ました。多目的ホールで利用者さん、職員全員で集まり、総勢80名くらいでの開寮記念日になりました。

始めに施設長のあいさつがあり、そのあとまずは勤続10年になった男性職員の荒木stの表彰、続いて、勤続5年になる女性職員の小泉st、地域生活支援室の南st、お炊事の伊地知stが表彰されました。表彰者には、賞状と、利用者さんからの花束の贈呈がありました。表彰者のみなさんからは、「これからも利用者みなさんと笑顔で日々を送れるようにしていきたい。」とのお言葉を頂きました。その後、介護福祉士の資格を取得した職員の紹介と、金一封の贈呈がありました。

さあ、ここから利用者さんにとってはお楽しみどころ。今回のメニューはとんかつ、若竹煮、菜の花のそぼろ和え、フルーチェでした。午前中、おみこしを頑張った利用者さんも職員もお腹はペコペコ。全員で元気に「いただきます」をしました。さて、食べ始めると、好きな物からガッツリと、あっという間に召し上がってしまう人、好きなものは後からと、味わいながらゆっくりと食べる人と様々でしたが、全員で今年も開寮記念日をお祝いすることが出来てよかったです。最後はみんなで「ごちそうさま」お炊事の職員のみなさん、おいしいとんかつ定食ありがとうございました。

65才おめでとう！





地域生活支援室の“今” ますます充実してまいります

居宅サービス事業所開始から5年が経過し、利用者様方とヘルパー（登録を含めて）10名、ゆつくりとではあります。利用人数も利用者様との関係も深まっています。

5年前はまだ中学生だった方が今年高等部を卒業され、作業所へ通所されるまでに成長された姿をとて嬉しく思います。

学校や作業所であったこと、楽しかったことを言葉では伝えにくくても、それぞれの得意な表現方法で伝えて下さっています。

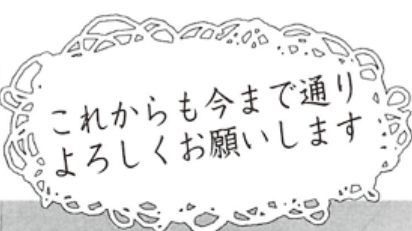
最近、身体に不自由をお持ちの方の利用が増え、福祉車両や車イスの安全な操作を心がけ、その方に合った介助をさせていただきます。

利用者様の年齢層も小学部の方より五十歳台の方まで幅広く利用されています。

用されています。一人ひとりの個性に合わせて関わらせて頂いていますが、時には機嫌が悪くなられたり、パニックを起こさたりすることもあります。そつと見守ったり、利用者様の気持ちを重視した対応を心がけています。しかし、ヘルパーの対応がまずかったからではないか…と言う事もあり、反省させられたり、教えられたりの毎日、私たちヘルパーも、利用者様と共に日々成長させて頂いております。

今年度より居宅介護事業は、特定事業所として届けを出し、職員のするべき事が増々多くなり、責任も重くなりますが、職員一同精一杯支援して行く所存ですので、これまで通りよろしくお願ひ致します。

今年度より居宅介護事業は、特定事業所として届けを出し、職員のするべき事が増々多くなり、責任も重くなりますが、職員一同精一杯支援して行く所存ですので、これまで通りよろしくお願ひ致します。



▲支援中の一コマ(Aさんと石田H)

ありがとうございます

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

平成27年4月末現在

《備品の寄贈》
河本文教福祉振興会



《物品の寄付》
滋賀教区浄土宗青年会

(敬称略)

利用者さんの生活や活動がより豊かになりました。大切に使用していただきました。

泉

新年度がスタートしました。今年度も引き続き、落穂寮へのご支援とご協力をよろしくお願い致します。

さて、最近気になる出来事がいくつかありました。5月に「大阪都構想」が住民投票によって否決されました。「大阪都構想」に対しての賛否についてはここで論じません。市民が自分たちの生活する都市のこれからの姿を自らの行動で決定したこと、意志を示す舞台が用意されたことが重要ではないかと思えます。これだけの規模で行われた住民投票は過去に例のないことです。一方、国政では「集団的自衛権」が議論となつていきます。ここでもその賛否は論じませんが、その進め方に危うさを感じます。憲法の解釈を変更するだけで、今まで否定されてきた「集団的自衛権」を可能にしてしまつてよいのか、と思うのです。これだけ重要な事柄に国民が意思を示す場がないのでは、と感じてしまいます。先の選挙では、経済問題が主な争点とされ、安全保障に関しての議論は少なく、選挙結果が「集団的自衛権」にお墨付きを与えたとと思えないのです。

木言

遠き山は青々と美しい

その緑は

ここからは見えない

幾重にも

重なりあつた小さな若葉

何万、何十万もの

見えなくとも存在している

何万、何十万も

